

次に、特別会計・事業会計の決算状況を見てみよう！

特別会計・事業会計は、一般会計と区分し特定の収入と支出で経理を行なう会計です。

(※万円未満は端数調整あり)

会計名	歳入	歳出	歳入歳出差引額
十王財産区特別会計	556万円	300万円	256万円
下水道特別会計	6億5,142万円	6億2,426万円	2,716万円
国民健康保険特別会計	15億2,558万円	15億1,445万円	1,113万円
農業集落排水特別会計	1億4,796万円	1億4,186万円	610万円
介護保険特別会計	16億6,445万円	15億9,725万円	6,720万円
後期高齢者医療特別会計	1億5,020万円	1億4,839万円	181万円
水道事業会計〈収益的収支〉	3億935万円	2億7,402万円	3,533万円
水道事業会計〈資本的収支〉	1,500万円	1億3,918万円	▲1億2,418万円
病院事業会計〈収益的収支〉	10億9,531万円	11億3,076万円	▲3,545万円
病院事業会計〈資本的収支〉	4,413万円	1億4,039万円	▲9,626万円
訪問看護ステーション事業会計〈収益的収支〉	2,731万円	3,371万円	▲640万円
合計（一般会計を含む）	154億2,476万円	147億3,543万円	6億8,933万円

前年度との比較と今後の見通しについて…

平成30年度は、共創のまちづくりの理念のもと、人口減少対策や地方創生に向けた施策を展開してきました。

一般会計における決算は、前年度に比べ歳入総額で1億997万円（1.1%）、歳出総額で1億6535万円（1.9%）上回る結果となり、収支差引は8億33万円となりました。

歳入については、町が自主的に収入することができる町税などの**自主財源**は、税収入の395万円の増や、繰越金の増などにより、前年度に比べ約1億5588万円の増加となりました。また、国や県からの補助金や地方交付税、地方譲与税、町債（借入金）などの**依存財源**も、約1790万円の増加となりました。

歳出については、支出が義務づけられ任意に削減できない**義務的経費**は、扶助費（住民福祉経費）が約3348万円、公債費（借入金返済）が約304万円の増加となりました。義務的経費以外の**任意的経費**では、普

通建設事業費（公共・公用施設の整備経費）が、まちづくり複合施設整備事業の増などにより約2億5885万円の増加となりました。そのほか、今後見込まれる財政需要等に備え、減債基金（将来の借入金返済に備える基金）に1億円の元金積立てを行いました。

持続可能で健全な財政運営を基本とした取組を進めています。また、国から配分される地方交付税と国や県の補助金などへの依存度が高く、自主財源の確保が大きな課題となっております。

引き続き、計画的な行財政改革の推進に努め、より良いまちづくりを進めていきます。

では、具体的にどのようにお金が使われたのか、気になる中身を次のページで見てみよう！

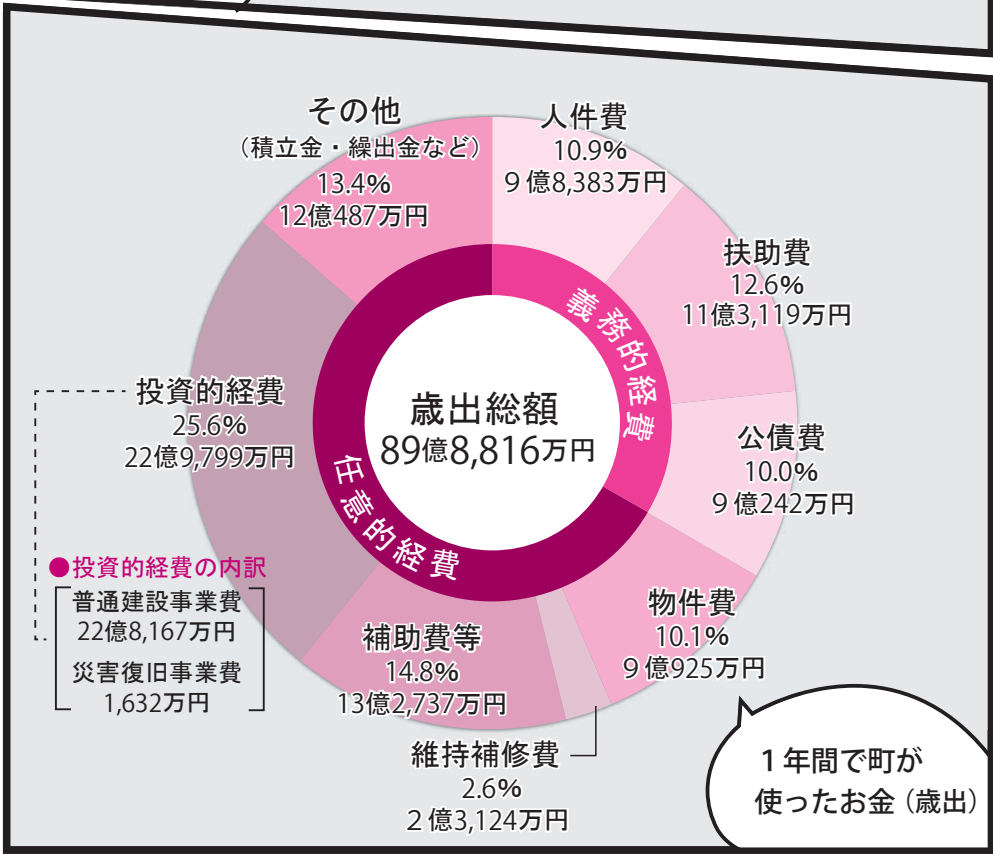
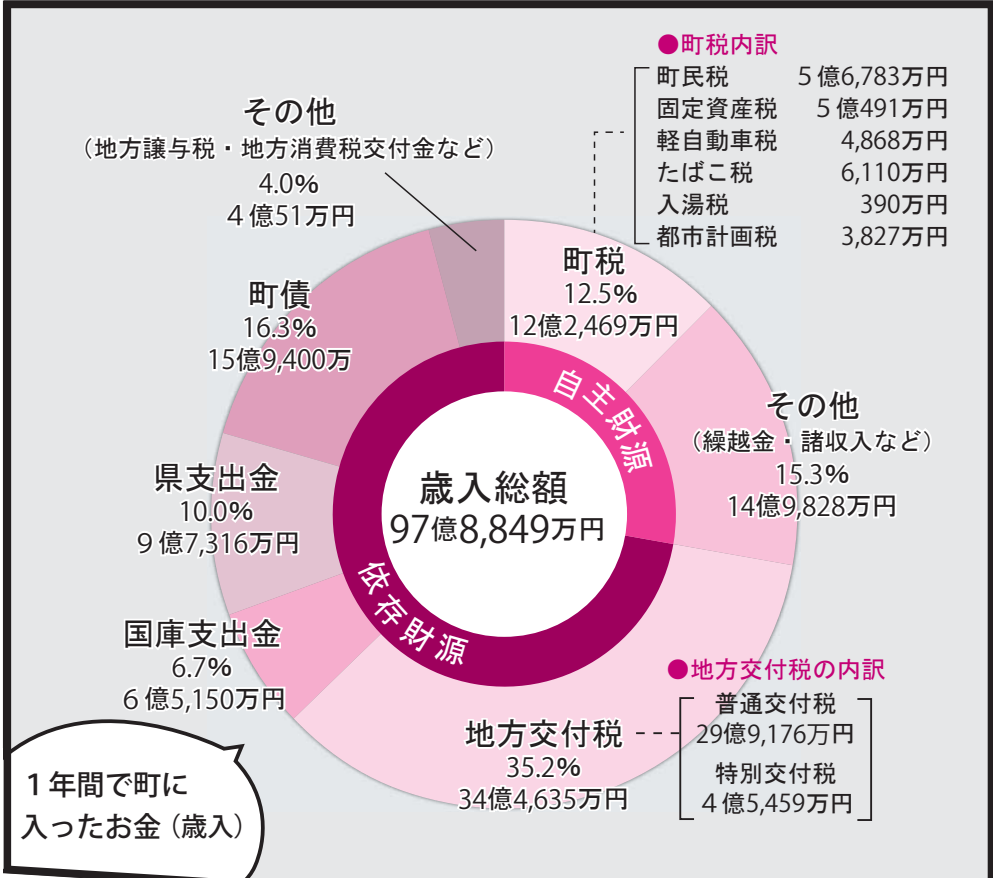


# 一般会計の決算内訳がコチラ！



皆さんに納めていただいた税金の使い道がわかる！

# まちの財政状況



平成30年度の決算を報告します。

